

クオリティインディケーター（QI）成果報告

【麻酔科】

指標名

緊急手術の応需

目標：ゴール

定期手術を安全に運営することに加え、緊急で手術が必要な患者に対しても、その緊急度に応じて迅速かつ安全に対応する必要がある。緊急時であっても定期手術と同等の安全性を担保するための環境整備は不可欠である。その上で、緊急手術の応需体制をより強固なものとし、年間必要件数として定めている350件以上を安定して達成・維持することを目標とした。

目標：ゴール達成による効果

緊急手術は定期手術に比べ、事前情報の不足や術前準備の制限があり、さらに切迫した状況下での迅速かつ適切な判断が求められる場面が多い。患者の安全管理を最優先する環境づくりが必須である一方で、単に応需件数の増加のみに意識が向くと、最も重要な「安全性」が脅かされるリスクが生じる。本目標では、単なる件数の達成を目的化するのではなく、「いかに安全に手術を実施できる状況を整えるか」に注力している。これにより、結果として安全かつ安定的に緊急手術を応需できる堅固な運用基盤の構築が期待できる。

目標：ゴールに対する成果の状況

目標件数である350件を優に達成するだけでなく、昨年度と比較して緊急手術の応需件数および手術室での麻酔科管理症例数は微増となった。これは、人員の増加やシステム面での具体的な環境拡充がなされていない限られた運用体制下において、スタッフ個々の積極的な応需姿勢と、チーム全体の一層の運営努力が実を結んだ結果である。定期手術の件数が増加し、稼働状況が過密になる中で、前年度を上回る緊急症例を安全に受け入れられたことは、現場の多大な尽力により、当科の安全な麻酔管理体制が確実により充実してきていることを示している。

目標：ゴール達成度

- ☐ S : 大幅な目標を上回った
- ☒ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☐ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因より継続困難となった

目標：ゴールの課題・改善策

現在の限られた人的・物的資源の中で、最大限の緊急応需と高い安全性の確保を両立できている点は、現場スタッフの高度な連携と献身的な取り組みによる大きな成果である。今後の課題としては、この「質の高い安全な周術期管理」をいかに持続可能な形で担保していくかが挙げられる。

当院の特性上緊急手術でも急性大動脈解離などを例とする長時間手術が多く存在することもあり、これ以上の件数増加の追求は、現場の安全マージンを削るリスクをはらんでいるため、現在の優れた安全基準と運用実績を確実に継続的に維持していくことが、医療安全上最も適切な方針と考える。今後は、現在の良好な水準を安定的に保ちつつ、持続可能な医療供給体制の維持を目指し、業務の質的向上やチーム医療のさらなる成熟に焦点を当てて取り組んでいく。

その他

■全身麻酔による緊急手術 年間実績													【年間必須件数：350件】
2025年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
件数	34	23	37	45	34	43	34	41	43	36	30	30	430件／350件
累計	34	57	94	139	173	216	250	291	334	370	400	430	
2024年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度累計
件数	29	41	34	35	41	34	26	31	33	35	26	28	393件／350件
累計	29	70	104	139	180	214	240	271	304	339	365	393	

※緊急手術・・・「手術が緊急であると判断した時間から手術開始までの時間が24時間以内の場合」